

# ぶどう「サニールージュ」の摘粒作業が軽減！ 品質も向上！

東近江農業農村振興事務所農産普及課

## 【普及活動のねらい・対象】

盆前に出荷できる赤系ぶどう「サニールージュ」は消費者から人気があり、竜王町山之上で栽培面積の10%(35.8a)を占める主要品種ですが、果房が密着し摘粒に多くの労力を要する問題点がありました。

平成23年2月に着粒密度軽減と果粒肥大促進を目的としたジベレリン（以下GA）の新しい処理方法が適用拡大されたことから、摘粒作業の軽減を図るため、「サニールージュ」生産者5戸に対し、この処理技術の導入定着、安定生産に向けた指導を行いました。

## 【普及活動の内容】

平成24年度は、実証ほを設け、省力技術のポイントとなる第1回GA処理適期の把握と品質評価を調査しました。また、実証ほを他の生産者にも「見て」いただき、技術の有効性を確認していただきました。平成25年度は、5戸の生産者すべてで導入されたので、集合研修と個別巡回により園ごとに処理適期を指導しました。また、栽培期間を通じて定期的に園地を巡回し、房づくりや適期収穫の指導を行い、安定生産を図りました。

## 【普及活動の成果】

実証ほの結果により、展葉7枚時に第1回目のGA処理が摘粒作業の省力化に最も有効で、慣行区と比べて作業時間が8割程度軽減で、品質向上（大粒、糖度向上）・熟期促進効果も認められました。生産者にこの結果を数値でお返ししたところ、平成25年度は5戸すべてが省力技術を導入されました（H24：2a→H25：32.8a）。今年も摘粒作業の省力効果と品質向上効果を実感され、平成26年も継続して取り組まれます（H26：33.8a）。

収穫後に生産者に話を伺ったところ、「これまで摘粒がしんどくて厄介な品種であったが、この技術は作業が楽になるだけでなく、お客さまに喜んでもらえるブドウが収穫でき、大変喜んでいきます」と笑顔で話しておられました。今後も、生産者や産地が元気になり、活性化するよう支援を行います。

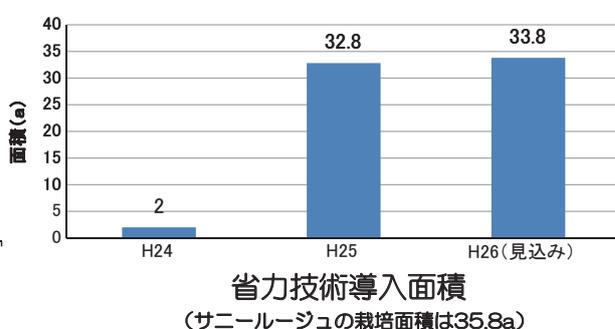
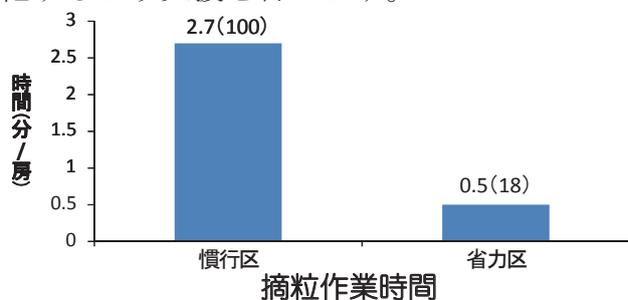


表 慣行区と省力区との品質の違い(H24)

区	房重(g)	粒数(粒)	一粒重(g)	糖度(Brix%)	果皮色(cc)
慣行区	409.6	80.5	4.9	17.4	3.0
省力区	440.9	66.0	6.5	18.9	5.8